

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190102687		
法人名	株式会社 アバンセライフサポート		
事業所名	グループホームこころ岐阜第2 (ユニット1)		
所在地	岐阜市栄新町3-30		
自己評価作成日	平成26年 1月 2日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=2190102687-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kanji=true&amp;JigyosvCd=2190102687-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成26年 1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

馴染みの深い地域で家族や友人との交流を大切にしています。日々の暮らしでは、その人らしく過ごして頂ける様に レクリエーションや毎月の行事を提供して皆様との交流を図っています。ご本人の趣味や習慣になっている事を行い、自由で明るく楽しい時間を過ごしていただいています。医療連携を行っている為24時間体制で健康管理をしています。利用者一人一人の意向や要望を たえず確認し、その人に合った支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は利用者の思いや意向に沿い、丁寧な接遇を前提にしつつも、時には娘や孫のように家族的な対応に心がけ、ホームの穏やかな暮らしの支援に取り組んでいる。  
 利用者の多くは地域に暮らしてきた住人であり、周辺に家族や知人も多い。その環境を活かし、歌の好きな利用者はホームから趣味のカラオケ教室に通い、教室の仲間が送迎を担当する等、仲良しの関係を継続している。別の利用者は近くのデイサービスに通う妻の訪問を頻回に受け、利用者は每晚ホームの公衆電話から妻に電話をする微笑ましい事例もある。  
 家族アンケートのホームの評価は高く、現在の支援の継続とともに更に利用者を支える介護サービスの向上に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境で「安心感のある」「笑顔のたえない」「自由な暮らし」を送って頂く為に、職員全体で理念を共有している。	法人の理念をフロアーに掲示し、誰もが確認できるように公表している。管理者は理念を踏まえて利用者の思いを読み取り、ホームの暮らしを穏やかに過ごせるよう職員の話し合いを重ねている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に入り、地域の行事への参加や回覧板などで、利用者が地域とつながって暮らせる様 交流している。	昨年から自治会に加入し、回覧板によって地域の行事の情報を得ている。ホームの古いお札を持参して地域の神社の左義長祭に向いたり、公園の清掃活動に参加するなど、地域との交流に努めている。	ホームは住宅の密集する地域に立地している。地の利を活かして地域住人の関わりを更に広げ、利用者の普通の暮らしの支援につながるよう望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターで行われる事例検討会などで、事業所で実践してきた認知症に関する理解や支援方法を 地域の方々に、紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 開催し、利用者様、ご家族や多方面の方に集まっていたき、報告や話し合いを行っています。会議内容は、他の職員に伝え サービス向上に努めています。	利用者、家族、自治会長、敬老会々長、行政の参加を得て年6回の会議を開催している。議題はホームからの報告に加え、災害対策、食事内容、外部評価結果、利用者の意向等、具体的なテーマを討議している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や日常生活用具の支給を受けている利用者もみえ、市の担当者と連携をしている。 また、運営推進会議にも出席していただき、意見や情報を交換している。	行政担当者が毎月運営推進会議に参加し、ホームの運営上の助言や意見交換を行っている。入居状況の報告や様々な手続きのために市を訪問している。市の主催する研修に職員が参加し、実践に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由から 施錠していません。 いつでも 職員と気軽に外に出ることができます。 身体拘束は マニュアルに従い、危険が起こりうる場合のみ、家族と利用者の了承を得て ベット柵をすることがあります。	ホームは住宅の密集する地域に所在しており、人の往来も多いため、防犯上の理由から玄関を施錠している。職員はマニュアルを理解し、拘束のない介護を実践している。拘束の必要な場合は、家族に説明のうえ期限を決めて実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、虐待に対する意識を高め、利用者や家族の声を大切に介護を行う様 努め、施設内で 虐待が起きないように注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解し、必要のある利用者には選択肢の一つとして、お話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書や重要事項説明書に沿って説明を行い、利用者や家族の相談にもなっています。入居時以外でも不安な事や疑問点があれば その都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には 月1回、自治会を開き 意見や要望を聞く機会をつくっています。家族は意見箱や 苦情解決第三者の連絡先など提示しています。意見があれば 反映できるように努めています。	利用者を主役に、自治会を毎月開催して意見を収集している。自治会の要望や意見は記録に残し、職員に共有のうえ反映するように取り組んでいる。家族と良好な関係を築き、家族は遠慮なく意見を表している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時や ユニットリーダーを通して いつでも職員が、意見や提案を話せる職場環境をつくっています。毎月のブロック会議では、職員の 意見や提案を反映しています。	カンファレンスを実施し、職員の意見を表す機会としている。職員が、管理者、ユニットリーダーに日常的に相談や意見を表すことのできる環境を築いている。管理者は、法人本部とのやり取りを職員に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設長会議や 定期的に行われる個々の評価シートを通して、管理者や職員の勤務状況等を把握しています。職場環境や条件についてのアンケートを取り 職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人のケアの力量を深める様、社内の研修の参加や勉強会を勧めています。また、外部の研修も積極的に勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの会議や社内での、各地のグループホームの勉強会や 交流などを通してサービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に、本人の困っている事や要望をしっかりと伺う事で 信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いと共に、家族の思いや不安な事、要望などを 入居前から伺い より良いサービスが提供できる様 信頼関係づくりにもつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族に 直接会い、グループホームへの入居や生活が適切であるか、担当者と話し合い相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に、おやつ作りをしたり、買い物に出掛けたり、日常生活での 何気ない会話をしたり 家庭的な雰囲気です。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に伝え、相談したり、医療機関への受診を お願いしたり、共に本人を支えていく関係になっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友人、家族など 来所しやすい環境作りに努めています。いつでも友人や家族と外出ができたり、地域のクラブにも参加し、続けていけるように支援しています。	地域の知人や以前利用していたデイサービスの仲間の訪問を受けている。浪曲の得意な利用者は、ホームの行事に自慢の喉を披露した。書道の得意な利用者は、通路の壁を作品発表の場として趣味を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、お茶や食事などの時間を共に過ごし、傾聴も行い、利用者同士の関係を把握しています。食後に皆さんが雑談をされるので、職員が間に入って 利用者同士、関わり合える様な雰囲気作りや支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談の受付や連絡など、必要に応じて取る様になっています。今後のサービスも紹介することができます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、日々の生活の中で 利用者の思いや意向を傾聴したり 表情や行動も見ながら聞き逃さない様にしています。些細な事でも担当者や関係者に相談し、周知して情報を共有しています。	職員の聞き取った利用者の思いや意向は、介護記録、送りノートに記し、職員間で共有している。家族の訪問時や電話をする機会に、利用者の情報を聞き取り参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や暮らし方を大切に考え、ご本人や家族から 今までの生活歴や暮らしについて 話を聞いたりして、把握に努めています。なじみの家具や寝具を使っていたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の過ごし方を見守りながら、心身状態の把握 有する力の把握を行い 現状に沿ったケアを実践しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らしていける様 ご本人の思いや意向を伺い 担当者、家族、関係者とも話し合い その人に合った介護計画を作成しています。	居室担当職員は、毎月利用者個々にモニタリングを実施している。ケアプランの見直しは、3か月ごとに家族の意見を確認のうえ、管理者、ケアマネージャー、計画作成担当者、居室担当職員を交えて実施している。	ホームでは、今後のテーマとして利用者の思いや意向を反映したケアプラン作成を目指している。その人らしい個別計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動などは、個々の記録に記入しています。ケアの実践や結果は 記録用紙に記入し、職員で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医との連携で、24時間の医療体制もできています。他の医療機関に受診が必要な時、家族の送迎が無理な場合に関して、職員の付き添いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会、地域のボランティア、公民館の活動などの地域資源を活用し、利用者が安全で豊かな生活が送れる様 取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、利用者の主治医やかかりつけ医と相談し、家族、本人の意向や状態も考慮しながら、適切な医療を受けられる様に支援しています。	全利用者が、協力医をかかりつけ医としている。職員である看護師が協力医と24時間の協力体制を築き、家族の安心に繋げている。他科受診は家族の同行を原則とし、困難な場合は同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が、日常の健康管理や状態把握、処置などを行っています。介護職員が 気がついた事などは その都度伝え、利用者は適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院に利用者の情報を送っています。入院中も 状態などの情報を協力医に報告しています。退院時は、今後のケアや対応などを相談したり、情報交換をして関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りに関する指針の説明を行い、また緊急時の対応について 本人、家族からの延命措置の意思を伺っています。	医療行為のないことを前提に、看取りの体制づくりに取り組んでいる。利用開始時に利用者、家族に看取りの指針を示したうえ、重度化に際しては医師、看護師を交え利用者、家族に説明を行い、適切な対応となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、24時間体制で医師や看護師に連絡できるように なっています。すべての職員が、初期対応や応急手当が出来るよう、定期訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三田防災の協力のもとに、年2回防災訓練を行い、利用者の避難方法の指導を受けながら、身につけています。町内の避難訓練にも 職員が順次参加していく様になっています。	消防設備業者の協力の下、年2回の訓練を実施している。消防署の立会い指導を受け、避難経路の確認や消火器の配置を確認し、マニュアル、職員連絡網、飲食の備蓄を整える等、災害対策に取り組んでいる。	災害発生時には、同地域にある法人のホームとの協力体制を整えているが、利用者の安全確保には地域の協力が不可欠である。地域に働きかけ協力関係の構築を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳が守られる様、全員が心がけています。言葉かけ、対応など自尊心やプライバシーの侵害にならないよう、常に気を配っています。	利用者の気持ちを尊重し、丁寧に接することに心がけている。呼称は苗字に「さん」をつけ、優しく話しかけている。居室はノックをして利用者の了解を得て入室し、入浴や排泄時は他の視線に注意を払い支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で コミュニケーションを大切にし、利用者が思いや希望を表出しやすい関係、環境作りをしています。また、自己決定することを大切に考え、し易い様に声かけしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のタイムテーブルは、一日の流れの目安で、利用者一人一人のペースを大切にしています。レクリエーションは、自由参加であり 居室で趣味をしたり、外出したり自由に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問してもらい、希望者は 利用して頂いています。日々の洋服は、ご自身で選んでみえます。選択困難な方に関しては、職員が 一緒に選び その人らしいおしゃれが出来る様 支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は外部に委託しています。メニューや味付けなどの感想を聞いて、好みに近づける様 委託業者に提案しています。後片付けは、利用者と共にいきます。また、時々おやつ作りを一緒に楽しんでいます。	弁当業者の料理を採用している。食事は家庭同様に事業所の台所で温め、食器に盛り付け提供している。嚥下能力に応じ、業者に刻みや一口サイズの調理を依頼し、利用者 に合わせた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量は、毎回気を配り一日を通して記録し、一人一人の状態を把握しています。状態に合わせた食事形態をとり、お好きな漬物をめしあがるなどの習慣も支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを行い 口の中の汚れや臭いをチェックしています。また、義歯使用の方は、洗浄、消毒を行い 口腔内の不具合があるときは、歯科受診をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の習慣や間隔を把握し、トイレへの排泄を心がけています。昼間のオムツの使用は、ほとんど無い。夜間は睡眠を妨げない様な排泄介助をしています。	排泄記録を取り、快適な排泄を目指して話し合いを実施している。適切な誘導・声掛けを行い、オムツから布パンツに改善した例もある。転倒の可能性のある利用者はポータブルトイレを居室に置き、夜間帯に使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽い運動を行うなど便秘にならない様に気を配っています。排便の記録をし、チェックしながら、便秘になりやすい方や排便困難な方は、看護師や医師の指示にて薬でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は安全の為 日中にしていきます。曜日や時間帯は希望をお聞きしています。希望される方には、入浴回数を増やしています。	利用者の希望に応じ、2日または3日おきの入浴を支援している。入浴は個浴とし、入浴剤を使用して温泉気分を楽しんでいる。利用者の中には、こだわりのマイシャンプーやよもぎ石鹸を使用している者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、日中の休息や夜間の安眠が取れるよう配慮しています。なじみの枕や布団で眠られる方もみえます。どうしても眠れない方は主治医や家族と相談して薬剤の使用も行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬している薬の目的や用法、用量は理解しやすいようにしています。薬の変更等も全員が把握するように申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事手伝い、花のお世話、カラオケ、大正琴の演奏、手芸など、利用者に合った好きな事をして頂く様 支援しています。気分転換に散歩などの支援もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそって、花屋、コンビニ、喫茶店など外出支援を行っています。また、季節ごとに 花見、紅葉見学、神社の参拝などにも出かけ 家族や地域の方も外出支援をさせていただきます。	気候を考慮のうえ、地域への日課の散歩、喫茶店、コンビニの買い物などの外出を支援している。趣味のカラオケ教室に通う外出や公園の花見など、極力利用者の希望を叶えるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、ご自身で管理されてみえます。そんな方は、電話代、日用品の買い物などご自分で支払いされる事が多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を持ってみえる方は、好きな時に家族などに連絡されています。玄関に公衆電話があり、必要な時は自由に利用できます。また、手紙の投函の支援や年賀状、暑中見舞いなど職員と一緒に書いたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつも心地よく過ごせる様季節の花を飾ったり、作品を飾ったりして工夫しています。常に清掃を心がけています。	季節の飾りつけや利用者の書道・塗り絵の作品、行事の写真等を壁に掲示し、利用者、家族が楽しむ空間としている。各ユニットは孤立せず、ボランティアの朗読、ハーモニカ、ホーム行事などの折は合同でリビングに集い、利用者の楽しみの時間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で談話したり、くつろいだり、出来る様に工夫し、机や椅子の位置にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物は、家族と相談のうえ、使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいています。机、たんす、寝具、仏具、など個々に大切な物を居室で使用されてみえます。	畳敷きの和室に鏡付きの洗面台を配置し、独立した居室として歯磨きや身支度のできる配慮がある。希望する家具、テレビ、仏壇、カラオケマシン、食事に添える漬物などを保管する冷蔵庫等の持ち込みがある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは自力で歩行や排泄ができやすい様にてすりを設置しています。居室、トイレの道順、表札を設置、常に職員が見守りや付き添いで安全に気を配っています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190102687		
法人名	株式会社 アバンセライフサポート		
事業所名	グループホームこころ岐阜第2 (ユニット2)		
所在地	岐阜市栄新町3-30		
自己評価作成日	平成26年 1月 2日	評価結果市町村受理日	平成26年 3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190102687-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2190102687-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1
訪問調査日	平成26年 1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>馴染みの深い地域で家族や友人との交流を大切にしています。日々の暮らしでは、その人らしく過ごして頂ける様に レクリエーションや毎月の行事を提供して皆様との交流を図っています。ご本人の趣味や習慣になっている事を行い、自由で明るく楽しい時間を過ごしていただいています。医療連携を行っている為24時間体制で健康管理をしています。利用者一人一人の意向や要望を たえず確認し、その人に合った支援をしています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p> </p>
----------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた環境で「安心感のある」「笑顔のたえない」「自由な暮らし」を送って頂く為に、職員全体で理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に入り、地域の行事への参加や回覧板などで、利用者が地域とつながって暮らせる様 交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターで行われる事例検討会などで、事業所で実践してきた認知症に関する理解や支援方法を 地域の方々に、紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 開催し、利用者様、ご家族や多方面の方に集まっていたき、報告や話し合いを行っています。会議内容は、他の職員に伝え サービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護や日常生活用具の支給を受けている利用者もみえ、市の担当者と連携をしている。 また、運営推進会議にも出席していただき、意見や情報を交換している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上の理由から 施錠しています。 いつでも 職員と気軽に外に出ることができます。 身体拘束は マニュアルに従い、危険が起こりうる場合のみ、家族と利用者の了承を得て ベット柵をすることがあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員、虐待に対する意識を高め、利用者や家族の声を大切に介護を行う様 努め、施設内で 虐待が起きない様に注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解し、必要のある利用者には選択肢の一つとして、お話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、契約書や重要事項説明書に沿って説明を行い、利用者や家族の相談にものっています。入居時以外でも不安な事や疑問点があれば その都度対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には 月1回、自治会を開き 意見や要望を聞く機会をつくっています。家族は意見箱や 苦情解決第三者の連絡先など提示しています。意見があれば 反映できるように努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの時や ユニットリーダーを通して いつでも職員が、意見や提案を話せる職場環境をつくっています。毎月のブロック会議では、職員の 意見や提案を反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、施設長会議や 定期的に行われる個々の評価シートを通して、管理者や職員の勤務状況等を把握しています。職場環境や条件についてのアンケートを取り 職員が働き易い環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員一人一人のケアの力量を深める様、社内の研修の参加や勉強会を勧めています。また、外部の研修も積極的に勧めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの会議や社内での、各地のグループホームの勉強会や 交流などを通してサービスの質の向上を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に、本人の困っている事や要望をしっかりと伺う事で 信頼関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の思いと共に、家族の思いや不安な事、要望などを 入居前から伺い より良いサービスが提供できる様 信頼関係づくりにもつとめています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人や家族に 直接会い、グループホームへの入居や生活が適切であるか、担当者と話し合い相談しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に、おやつ作りをしたり、買い物に出掛けたり、日常生活での 何気ない会話をしたり 家庭的な雰囲気でも過ごしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子を家族に伝え、相談したり、医療機関への受診を お願いしたり、共に本人を支えていく関係になっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の友人、家族など 来所しやすい環境作りに努めています。いつでも友人や家族と外出ができたり、地域のクラブにも参加し、続けていけるように支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、お茶や食事などの時間を共に過ごし、傾聴も行い、利用者同士の関係を把握しています。食後に皆さんが雑談をされるので、職員が間に入って 利用者同士、関わり合える様な雰囲気作りや支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談の受付や連絡など、必要に応じて取る様になっています。今後のサービスも紹介することができます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、日々の生活の中で 利用者の思いや意向を傾聴したり 表情や行動も見ながら聞き逃さない様にしています。些細な事でも担当者や関係者に相談し、周知して情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や暮らし方を大切に考え、ご本人や家族から 今までの生活歴や暮らしについて 話を聞いたりして、把握に努めています。なじみの家具や寝具を使っていたりしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の過ごし方を見守りながら、心身状態の把握 有する力の把握を行い 現状に沿ったケアを実践しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らしていける様 ご本人の思いや意向を伺い 担当者、家族、関係者とも話し合い その人に合った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動などは、個々の記録に記入しています。ケアの実践や結果は 記録用紙に記入し、職員で情報共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医との連携で、24時間の医療体制もできています。他の医療機関に受診が必要な時、家族の送迎が無理な場合に関して、職員の付き添いを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会、地域のボランティア、公民館の活動などの地域資源を活用し、利用者が安全で豊かな生活が送れる様 取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、利用者の主治医やかかりつけ医と相談し、家族、本人の意向や状態も考慮しながら、適切な医療を受けられる様に支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が、日常の健康管理や状態把握、処置などを行っています。介護職員が 気がついた事などは その都度伝え、利用者は適切な受診や看護を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院に利用者の情報を送っています。入院中も 状態などの情報を協力医に報告しています。退院時は、今後のケアや対応などを相談したり、情報交換をして関係づくりをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看取りに関する指針の説明を行い、また緊急時の対応について 本人、家族からの延命措置の意思を伺っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時には、24時間体制で医師や看護師に連絡できるように なっています。すべての職員が、初期対応や応急手当が出来るよう、定期訓練しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	三田防災の協力のもとに、年2回防災訓練を行い、利用者の避難方法の指導を受けながら、身につけています。町内の避難訓練にも 職員が順次参加していく様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の尊厳が守られる様、全員が心がけています。言葉かけ、対応など自尊心やプライバシーの侵害にならないよう、常に気を配っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で コミュニケーションを大切にし、利用者が思いや希望を表出しやすい関係、環境作りをしています。また、自己決定することを大切に考え、し易い様に声かけしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のタイムテーブルは、一日の流れの目安で、利用者一人一人のペースを大切にしています。レクリエーションは、自由参加であり 居室で趣味をしたり、外出したり自由に過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問してもらい、希望者は 利用して頂いています。日々の洋服は、ご自身で選んでみえます。選択困難な方に関しては、職員が 一緒に選び その人らしいおしゃれが出来る様 支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は外部に委託しています。メニューや味付けなどの感想を聞いて、好みに近づける様 委託業者に提案しています。後片付けは、利用者と共に行います。また、時々おやつ作りを一緒に楽しんでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量は、毎回気を配り一日を通して記録し、一人一人の状態を把握しています。状態に合わせた食事形態をとり、お好きな漬物をめしあがるなどの習慣も支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 口腔ケアを行い 口の中の汚れや臭いをチェックしています。また、義歯使用の方は、洗浄、消毒を行い 口腔内の不具合があるときは、歯科受診をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の習慣や間隔を把握し、トイレへの排泄を心がけています。昼間のオムツの使用は、ほとんど無い。夜間は睡眠を妨げない様な排泄介助をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽い運動を行うなど便秘にならない様に気を配っています。排便の記録をし、チェックしながら、便秘になりやすい方や排便困難な方は、看護師や医師の指示にて薬でコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は安全の為 日中に行っています。曜日や時間帯は希望を お聞きしています。希望される方には、入浴回数を増やしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、日中の休息や夜間の安眠が取れるよう配慮しています。なじみの枕や布団で眠られる方もみえます。どうしても眠れない方は主治医や家族と相談して薬剤の使用も行います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服薬している薬の目的や用法、用量は 理解しやすいようにしています。薬の変更等も 全員が把握するように申し送っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事手伝い、花のお世話、カラオケ、大正琴の演奏、手芸など、利用者に合ったお好きな事をして頂く様 支援しています。気分転換に散歩などの支援もしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望にそって、花屋、コンビニ、喫茶店など外出支援を行っています。また、季節ごとに 花見、紅葉見学、神社の参拝などにも出かけ 家族や地域の方も外出支援をしていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、ご自身で管理されてみえます。そんな方は、電話代、日用品の買い物などご自分で支払いされる事が多いです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で携帯電話を持ってみえる方は、好きな時に家族などに連絡されています。玄関に公衆電話があり、必要な時は自由に利用できます。また、手紙の投函の支援や年賀状、暑中見舞いなど職員と一緒に書いたりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、いつも心地よく過ごせる様季節の花を飾ったり、作品を飾ったりして工夫しています。常に清掃を心がけています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で談話したり、くつろいだり、出来る様に工夫し、机や椅子の位置にも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの物は、家族と相談のうえ、使い慣れた物や好みの物を持ってきていただいています。机、たんす、寝具、仏具、など個々に大切な物を居室で使用されてみえます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは自力で歩行や排泄ができやすい様にてすりを設置しています。居室、トイレの道順、表札を設置、常に職員が見守りや付き添いで安全に気を配っています。		